

# AMDA国際医療情報センター 設立5周年記念の集いに参加して

港区医師会理事 高岡 邦子



AMDA（アジア医師連絡協議会）は79年に主としてアジア地域の医療に恵まれない人々への支援を目的としてスタートしましたが、バングラデッシュやルワンダを始めとする難民救援や予防医学の普及のための医療スタッフの派遣、阪神大震災やサハリン地震の際の出動、AMDA国際医療情報センターでは言葉の通じない外国人のための電話相談や医師の紹介など、活動は多岐にわたっています。活動に参加しているのは医師や看護婦だけでなく、一般のボラ

ンティアもたくさんいますので昨年からはAMDAというのは略称ではなく団体の名称となりました。

私は5年前のセンター設立まもない頃、AMDAの活動を知りセンター所長の小林米幸先生（大和市で開業）と電話でお話してすっかり意気投合しました。自分が参加するだけでなく港区は外国人の多いところですので、港区医師会の中で全部の科に対応できるよう数人の先生に参加を呼び掛けました。すでに赤枝先生が入会されていま



AMDA国際医療情報センター設立5周年記念の集い会場

したが、当時の山田副会長をはじめ、野口先生、長谷川先生、藤田先生などが趣旨に賛同して入会して下さいました。現在、耳鼻科、眼科の先生がいませんので、英語、仏語、スペイン語など何語でもかまいませんから、外国人のために役に立ちたいとお考えの方はぜひご参加下さいますようお願いいたします。

さる5月26日、センター設立5周年を記念する会があり、当初から参加していたメンバーのひとりとして以下のような話をしてきましたが、日常の診療で外国人に接することの多い港区医師会員にとって何かのお役にたつかもしれないとの気持ちから投稿します。

## 外国人医療にあたっての留意点

高岡クリニック 高岡 邦子

外国人の患者さんを診察する際にも、信頼関係を築くように接するなど基本的には日本人と全く変わりはありません。ただし、日本人の患者さんに対するよりもちょっとだけ配慮しなければならないことがいくつかありますので、私の経験、失敗談などをおまぜながらお話してみたいと思います。

- 相手は言葉が通じず、体調が悪いなど極度の不安状態に陥っていることをよく理解しなければならない。こちらがどんなことでも受けとめられる余裕がないと不用意な言葉や表情で相手を傷つけてしまうこともある。
- それぞれの国民性や医療事情、経済格差を理解したうえで接する。
  - ・ 他人には肌を見せない○○○の女性
  - ・ 家族のひとりが具合が悪いと一家総出でくる○○○
  - ・ 何でも徹底的に調べないと納得しない○○○
  - ・ 具合が悪いときでもジョークを連発し、状況判断をあやまらせる○○○
  - ・ ダメモトで何でも要求する○○○

- ・ 1日10人位の患者しかみないので自分の持ち時間は1時間と思っている○○○

- ・ 「1けた違うのではないの」といわれた請求書…

### ● 自費の場合には明細書が必要

検査や投薬は必要最小限度とし、「この検査をするには大体この位の費用がかかるがどうするか」など説明し事前に了解を求める。

保険点数以下のダンピングをしてはならない（後で他の医療機関が正規に請求した時、逆に不当に高くとられたと受け取ることがある）

- 「この病気はどういうことが原因で、この薬はどういう作用がある。なおるのにどの位の日数がかかる」などをきちんと説明する。なるべく医学用語でなく一般的な言葉を選んで話す。

- 通訳がないときには「自分は今あなたのために○○をしている」と説明しないと、「自分のことを放っておいて他のことをしている」と受け取られることがある。

- 紹介状を書くときは薬の名前は商品名でなく一般名で書く。